

令和八年度 京都府公立高等学校入学者選抜  
前期選抜学力検査

共通学力検査

国語

解答上の注意

- 1 「始め」の指示があるまで、問題を見てはいけません。
- 2 問題は、この冊子の中の1～6ページにあります。
- 3 答案用紙には、受付番号を記入しなさい。氏名を書いてはいけません。
- 4 答案用紙の答の欄に答えを記入しなさい。採点欄に記入してはいけません。
- 5 答えを記入するときは、それぞれの問題に示してある【答の番号】と、答案用紙の【答の番号】とが一致するように注意しなさい。
- 6 答えを記号で選ぶときは、答案用紙の答の欄の当てはまる記号を○で囲みなさい。答えを訂正するときは、もとの○をきれいに消すか、それに×をつけなさい。
- 7 答えを記述するときは、丁寧に書きなさい。
- 8 字数制限がある場合は、句読点や符号なども一字に数えなさい。
- 9 答えの書き方について、次の解答例を見て間違いのないようにしなさい。

解答例

一 木曜日の翌日は何曜日か、漢字一字で書け。……………答の番号【1】

二 次の問い(1)・(2)に答えよ。

(1) 北と反対の方角として最も適当なもの  
のを、次の(ア)～(ウ)から一つ選べ。  
……………答の番号【2】  
(ア) 東 (イ) 西 (ウ) 南

(2) 次の(ア)～(オ)のうち、奇数をすべて選べ。  
……………答の番号【3】  
(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3  
(エ) 4 (オ) 5

二		一	問題番号
(2)	(1)		答の番号
【3】	【2】	【1】	答の欄
ア イ ウ エ オ	ア イ ウ	金 曜日	採点欄
【3】	【2】	【1】	

共通学力検査					
国語					
受付番号					
1	2	3	4	5	6
得点					

次の文章を読み、問い(1)～(8)に答えよ。(19点)

古代の文房具は、道具としての特殊性だけでなく、考古学的な研究対象としても若干特異な部類に属するといえる。その理由の一つとして、出土遺構や時代が非常に限定的であるという点が挙げられるが、これはすなわち機能・用途が限定的であったということを示している。古代の文房具は狩猟採集具や農具、調理・保管・運搬具などのように実生活で用いられる頻度が高いものではない。一方で、機器や装飾品などのような非実用的な道具でもない。つまり、文房具は生活必需品ではなく、人間が古代社会の中で、ある特定の活動をする際にのみ備わっているべき道具であったといえる。古代の文房具は決して個人的な行動や行為のために使われたものではなく、社会がある段階に達したときに、複雑な社会構造の中で集団間・個人間の活動や意思伝達、思想普及を円滑に遂行する過程で発達した可能性が最も高い。文房具を対象とした考古学的研究では、この部分を常に念頭に置くべきである。

先に触れたように、「文房具」は特定の一つの道具を指すのではなく、ある目的のために相互補完的に用いられる道具の集合体である。古代においては基本的な目的は自明であり、それは書写(筆記)にほぼ限られ、それを達成するために必要な道具のセットであった。そしてその諸道具は単一の素材のみで製作されたものではなく、多種多様な素材で様々な形に作られた。その意味で文房具研究は、馬具研究・武器研究・瓦研究などの概念に近く、用途論よりも、その出現や展開が示す社会・文化変化の背景を検討するのに適した素材といえる。ただし文房具と用途論は全く無関係ではない。

以下は今まで述べたことに對し、すぐに言を翻すような内容である。(1) 先に「文房具は文字を書くための道具」とした。これは間違いではない。しかし「硯や筆は文字を書くための道具」とするのは注意が必要である。必ずしもそうではないからである。端的な例を挙げると、水墨画は硯で墨を磨って筆を使用するが、文字ではなく絵を描く。西洋画でも「画筆」「絵筆」と呼ばれる絵画専用の筆があり、それは構造的に一見文字を書く筆によく似ているものがある。今でも筆の産地では字筆と画筆と化粧筆を一緒に生産していたりする。

書道のための筆はどうだろうか。書道は言うまでもなく文字を書く行為であるが、文字の造形に芸術性を見出し、書かれた文字を鑑賞することも大きな目的の一つである。(2) その意味では絵画に近いところもある。書道用の、特に大型の筆を「筆記具」と呼んだときに違和感はないだろうか。

墨の役割も、それで字を書いたり絵を描いたりするだけでなく、墨壺を利用して建築部材にマークを付けることが古代建築でも行われていたとされる。墨の

【下へつづく】

産地では筆記用の墨とともに「厝墨」、すなわち化粧用の墨も製作していた。なぜこのようなことを問題にするかというと、遺跡から「文房具的な道具」が出土したとき、それが本当に文字を書く道具として使用したかの判断が実はかなり難しく、考古学研究で重要かつ厄介な「用途の判定」を慎重に行わなければならないためである。遺跡から筆のような道具が出たとして、それで字を書いたのか絵や文様を描いていたのか、漆を塗っていたのか、はたまた化粧をしていたのか。硯のような道具が出たとして、それで墨を磨っていたのか砥石として何かを研いでいたのか、その判断如何によってそれが出た遺跡やその時代の社会・文化の評価、時代のイメージが変わってきてしまうかもしれない。(3) 実際に研磨痕がある弥生時代の板状の石の道具が墨を磨った硯なのか砥石なのかという議論がある。墨を磨っていたとしても、それで文字を書いたかどうか、議論を深める必要がある。

もちろん、文字使用の有無はそれら道具だけで議論しているわけではない。(4) 諸外国との外交における文字使用の必要性や内政における文書行政の蓋然性など、それぞれの時代背景として文字を必要としていた社会だったかどうかは、「文房具的な道具」が本当に文房具であったかどうかを考える上で重要な指標である。縄文時代の石皿を硯とせず、黒漆を筆記用の顔料としないのは、時代背景の脈絡がそのような荒唐無稽な見方を許さないためである。その意味で、日本列島の政治性を帯びた集団が国際舞台に登場した時代である弥生時代後半期に文字を使用する必要性が高まっていたのは当然であり、それに伴って文字を書く専用の道具がいつからあったかの議論は深化させる意味がある。

(山本孝文「文房具の考古学」による)

注

- \*遺構：昔の土木建築の構造や様式などを知る手掛かりとなる残存物。
- \*先に触れた：本文より前で触れた部分。本文は文章の途中から引用している。
- \*補充：足りないものを補って完全なものにすること。
- \*墨壺：大工などが用いる道具の一つ。
- \*如何によって：どうであるかによって。
- \*蓋然性：事柄が起こる確からしさ。
- \*顔料：絵の具や塗料。

(1) 本文中の「遂行」と「帯びた」の漢字の部分の読みをそれぞれ平仮名で書け。 答の番号【1】

(2) 本文中の  に入る最も適当な表現を、次の(ア)～(エ)から一つ選べ。 答の番号【2】

- (ア) 機能・用途論的視点
- (イ) 考古学的な分類
- (ウ) 道具としての実用性
- (エ) 集団間・個人間の活動



二 次の文章を読み、問い(1)～(6)に答えよ。(19点)

(1)～(10)は、各段落の番号を示したものである。

1 一般に古代の文化において、虹は超自然的な存在、もしくはそうした存在によって生み出されたり作られたりしたものと考えられた。古代ギリシアで虹の出現が女神の出現である一方、古代中国でそれは龍や大蛇のような伝説の生き物のそれであった。また別の文化では、虹は、超自然的な存在によって作られたものである。上に引いた『創世記』の一節のなかで、神が「わたしは雲の中に、にじを置く」と言うときの「にじ」は、もともとは「弓」を意味する言葉である。英語の rainbow の bow が弓を意味することを思い出せばよい。フランス語で虹が l'arc-en-ciel (つまり「空のアーチ (弓) 」と呼ばれることもよく知られている。

2 もちろん、現在のわれわれは、虹が女神でもなければ、空に浮かぶ巨大な弓でもないことをよく知っている。それでは、こうした神話や伝説は、もう何の役にも立たないものとして打ち捨てておけばよいのだろうか。そうしていけないとは言わないが、そうしないことにも、理由がないわけではない。少なくとも二つの理由を挙げることができる。

3 第一に、昔の人々が虹にとって本質的だと考えた特徴とは何かを、こうした神話や伝説から引き出すことができる。そうした特徴は現在ではもはや本質的ではないと考えられるとしても、虹を他のものから区別するもっとも顕著な特徴と人々に映ったものとして、それはひょっとすると、虹についての満足な説明を与えたいならば考慮しなければならぬ点なのかもしれない。

4 第二に、古代人にとっては実在であったが、現在のわれわれにとっては想像上の存在でしかないものも、存在論的探究の対象となりうる。存在論的探究は、存在するものだけに限定される必要はない。存在論が、現に存在するものだけでなく、存在するかもしれないもの、存在したかもしれないものも扱うべきだということは広く認められている。①、存在すると考えられたり想像されたりしただけのものはどうだろうか。不可能な存在者をひとは考えたり想像したりすることができるところから、そうすることは、存在論的探究の対象をたしかに拡大することである。存在論のこうした拡張は、はたして不当な拡張だろうか。

5 存在論のもっとも基本的な問いとは「何が存在するか」であって、「何が存在すると考えられるか」ではないと言われるかもしれない。あるいは、「何が存在しうるか」であって、「何が存在しうるかと考えられるか」ではないと言われるかもしれない。

6 こう言うことは、一方で、たしかに正しい。特定の性質をもつ物質や現象の存在を理論によって予測するだけでは、科学者の仕事は終わらない。そうした物質や現象が実際に存在することをたしかめなくては、科学ではない。存在論でも同じである。話がもっと一般的であることと、実験や観察ではなく、論証によって、理論の正誤が争われるという点が違うだけである。だが他方で、科学にしても哲学的な存在論にしても、結局のところは、現在手持ちの証拠や、現在思いつくことのできる論証の限りで、われわれに正しいと思える理論を採用しているだけのことである。いまから数世紀経ったときに、現在正しいとされている理論がそのまま正しいということは保証されない、というよりもむしろありそうにないことである。

7 つまり、「何が存在するか」あるいは「何が存在しうるか」という問いへの答えを与えたとわれわれが思っても、われわれの後に来る者から見れば、結局われわれが与えたのは「何が存在する、あるいは、存在しうるとわれわれが考えたか」でしかない。もちろん、われわれの後に来る者の立場に立つことは、現在のわれわれ自身にはできない。それはいわば、自分の思考の外側に立つこととすることであり、誰も自身の思考の内側と外側の両方に存在することはできないからである。

8 しかしながら、他人の思考、とりわけ過去の他人の思考についてならば、われわれはすでにその外側にいる。そのうえ、どの程度の努力が必要なのかは場合によって異なるだろうが、その内側に入り込もうと試みることもできる。たとえば、古代のギリシア人は、ゼウスを神々のなかの王と考えて信仰していた。かれらは当然、ゼウスの存在を疑っていなかっただろう。ゼウスの存在を認めることは、ゼウス以外の神だけでなく、他のさまざまな存在者を含む、包括的な存在論を認めることである。こうした古代ギリシア人の存在論を、できるだけそのままの形で取り出そうとするような試みを、「内からの存在論」と呼ぼう。

9 現代のわれわれは、ゼウスを存在するものなかに数えない。固有名「ゼウス」は何も指示しないのではなく、「神話的存在者」と呼ばれる人工物を指示すると考える立場もあるが、この場合でもゼウスは、古代ギリシア人が考えたような性質をもつ存在者、すなわち神ではない。そうすると、「ゼウス」が何も指示しない名前であることと、「ゼウス」が指示するような存在者をいっさい認めなかったり、あるいは、それが人工物を指示する名前であるとして、「神話的存在」と呼ばれる存在者を認めたりするのは、「外からの存在論」の一部だということになる。

10 一つの時代でも、ひとは自身の言語と思考から出発するしかない。②、何が存在するかを探究する存在論は、内からの存在論として始まるしかない。だが、やがてひとは、自分たちとはずいぶん異なる言語と思考のもとで生きた時代や文化があったことに気づく。そうした時代や文化に属するひとが、何が存在すると考えていたかを知ろうとすることは、何が本当に存在するとわれわれが考えるのかとは独立に可能である。

(飯田隆)「虹と空の存在論」による……一部表記の変更や省略がある)

注

\*超自然的…自然の法則を超えていて、理論では説明がつかないさま。

\*上に引いた…本文より前で挙げた部分。本文は文章の途中から引用している。

\*創世記…旧約聖書の冒頭の書。

\* rainbow…虹。

\*存在論…存在することの意味や根拠を探究する学問。

\*ゼウス…ギリシア神話の最高神。

(1) 本文中の そうしないこと にも、理由がないわけではない。 について説明した ものとして最も適当なものを、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。 ……答の番号【10】

(ア) 現在のわれわれが、虹が女神でも空に浮かぶ巨大な弓でもないということを知らなかつたことにも、理由がないとは限らないということ。

(イ) 現在のわれわれが、虹がどのように生み出されたり作られたりするかについて考えないことにも、理由がないとは言わないということ。

(ウ) 現在のわれわれが、虹に関する神話や伝説を打ち捨ててはいけなと言わないことにも、理由があるはずであるということ。

(エ) 現在のわれわれが、虹が女神や空に浮かぶ巨大な弓であるとする神話や伝説を打ち捨てておかないことにも、理由があるにはあるということ。

(2) 本文中の 頸子 の片仮名の部分を漢字に直し、楷書で書け。

………答の番号【11】

(3) 本文中の 与え の活用形として最も適当なものを、次の I 群 (ア)～(エ) から一つ選べ。また、後の II 群 (カ)～(ケ) のうち、波線部 (~~~~) が 与え と同じ活用形であるものを一つ選べ。 ……答の番号【12】

I 群	(ア) 未然形	(イ) 連用形	(ウ) 連体形	(エ) 仮定形
II 群	(カ) 正月には着物を着ます。	(キ) 風が吹けば涼しい。	(ク) 笑いの絶えない日々です。	(ケ) 九時に電車が来るようだ。

(4) 本文中の ①・② に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。 ……答の番号【13】

(ア) ① そして ② しかし (イ) ① たとえば ② または  
(ウ) ① 一方 ② なぜなら (エ) ① では ② したがって

(5) 本文における段落どうしの関係を説明した文として適当でないものを、次の (ア)～(エ) から一つ選べ。 ……答の番号【14】

(ア) 3・4 段落それぞれにおいて、2 段落で提示した話題を受け、説明をしている。

(イ) 6 段落では、5 段落で挙げた意見に対して理解を示したうえで、筆者の見解を述べている。

(ウ) 7 段落では、言い換えの表現を用いながら、5・6 段落で述べた内容をまとめて述べている。

(エ) 8 段落では、7 段落で述べたまとめに対して反論を述べ、新たな視点から疑問を投げかけている。



次の文章は、「日本永代蔵」の一節である。注を参考にしてこれを読み、問い(1)〜(4)に答えよ。(12点)

唐土文王の園は、七十里四方あるとやいへり。その内の千草万木の詠めも、一間四方の圃地に終一本植ゑて見るも、我が屋敷と思へば、楽しむ心のかはる事なし。ここに、越前の国敦賀の大湊に、年越屋の何がしとて有徳人、所に久しく住みなれて、味噌・醤油をつくり、はじめはわづかなる商人なるが、次第に家栄えける。世の万にかしこく、分限になるそももは、山家へ毎日売りぬる味噌を、いづれにても小桶・俵を拵へ、この費かぎりなし。時にこの親仁、工夫仕出して、七月玉祭りの棚をくづして、桃・柿瀬々を流るる川岸に行きて、捨れる蓮の葉を拾ひ集め、一年中の小売味噌を包めり。この利発世に見習ひ、これにつつまぬ圃もなし。程なく大屋敷を買ひもとめ、その庭木にも花咲き実をながめ、生垣も枸杞・五加木を茂らせ、萩は根びきに、風車は十八さげに植ゑ替へ、おなじ蔓にも取得のある物を好めり。海月桶のすたるにも蓼穂を植ゑ、目にかかる程の事、ひとつも愚かなる仕業なし。

〔新編日本古典文学全集〕による……一部表記の変更がある

注

- \*唐土文王…中国の周の文王。
\*越前の国敦賀…現在の福井県敦賀市。
\*有徳人…裕福な人。
\*分限になる…裕福になる。
\*七月玉祭りの棚をくづして、桃・柿瀬々を流るる…盆供養が終わり、飾りつけを崩して桃や柿が川を流れている。
\*枸杞・五加木…葉や根などが食用や薬用になる植物。
\*風車…花の形が風車に似た植物。
\*海月桶…食用のクラゲを塩漬けにする桶。
\*圃地…空き地。
\*大湊…港町。
\*世の万に…世渡りの万事に。
\*山家…山間部の民家。
\*十八さげ…実が食用になる植物。
\*蓼穂…香辛料になる食用の蓼の穂。

(1) 本文中の「かはる」をすべて現代仮名遣いに直して、平仮名で書け。また、次の(ア)〜(エ)のうち、波線部(~~~~)が現代仮名遣いで書いた場合と同じ書き表し方であるものを一つ選べ。 [19]

- (ア) 言ひ出すべき (イ) 浮きぬしづみぬ流れける
(ウ) まことさへありながら (エ) ゆめをみるかな

(2) 本文中の「この費かぎりなし」の解釈として最も適当なものを、次の(ア)〜(エ)から一つ選べ。 [20]

- (ア) 味噌を売る時に必要な、小桶や俵といった容器をつくる体力がなかった
(イ) 味噌を売るための容器として必要な、小桶や俵をつくるのに金銭がかかった
(ウ) 小桶や俵といった、味噌を売るための容器をつくる時間がなかった
(エ) 小桶や俵といった容器の数に対して、売る味噌の量に限りがあった

(3) 本文中の「世に見習ひ」の解釈として最も適当なものを、次の(ア)〜(エ)から一つ選べ。 [21]

- (ア) 世間の人々が独自の手法を上達させて
(イ) 世間の人々が独自の手法を年越屋の何がしに教えて
(ウ) 世間の人々が年越屋の何がしの行いにあきれて
(エ) 世間の人々が年越屋の何がしの行いのまねをして

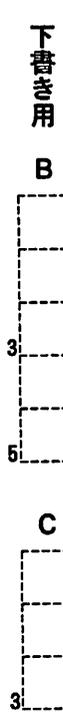
(4) 次の会話文は、千代さんと俊太さんが本文を学習した後、本文について話し合ったものの一部である。これを読み、後の問い①〜③に答えよ。

千代 本文は「年越屋の何がし」という商人の話で、A ようになっ
たきっかけが紹介されていたね。
俊太 うん。「年越屋の何がし」が、B ものである蓮の葉に C
味噌を売ったということが、本文からわかるね。
千代 そうだね。程なくして、「年越屋の何がし」が D ことについ
ても、本文で紹介されていたね。
俊太 なるほど。筆者が、「年越屋の何がし」の行動について「愚かなる
仕業なし」と表現しているのも納得できるね。

① 会話文中の A に入る最も適当な表現を、次の(ア)〜(エ)から一つ選べ。 [22]

- (ア) 七十里四方ある庭を持つ (イ) 家が繁栄する
(ウ) 楽しく暮らす心を持つ (エ) 港町に住む

② 会話文中の B・C に入る適当な表現を、本文の内容を踏まえて、B は三字以上、五字以内で、C は三字以内で書け。 [23]



③ 会話文中の D に入る最も適当な表現を、次の(ア)〜(エ)から一つ選べ。 [24]

- (ア) 数ある植物の中でも日常生活において実益があるものを、庭に植えた
(イ) 庭の目につく所に植えるものとして、見た目の美しさで花を選んだ
(ウ) 萩と同じように、食用の蔓も生垣から根こそぎ取り払った
(エ) 食用の蔓を育てる場所を確保するために、古い海月桶を処分した

